まこと

Volume 63 No.2
FEBRUARY 2016

教祖130年祭

Tenrikyo Mission Headquarters of Hawaii

リレー巻頭言

１月26日に教祖130年祭が執行されました。この年祭に向かう大事な時旬に、私たちは心定めをし、それを実践するなどそれぞれの方法で一生懸命に努めてきました。それらを通して、私たちはこの年祭までの３年間の間に陽気ぐらしへの歩みを少しでも進ませていただけたのではないかと思います。また、親神様、教祖から私たちが少しでも成人できるようにと様々なお手引きやご守護をお見せいただいたことと思います。130年祭は執行されましたが、これで年祭に向けて積み重ねてきた努力を終わりにするのではなく、年祭活動で培った勢いそのままに、これまで実践してきた心定めを続け、教えの理解を深めるとともに、陽気ぐらしの教えを一人でも多くの人に伝えさせていただくことが大切です。

諭達第三号に「時として、親神様は子供の行く末を案じる上から、様々なふしを以て心の入れ替えを促される」とあります。ふし、もしくは困難なことを通して、親神様は私たちが少しでも成人できるように、生きていく上で大切なことを教えてくださるのです。一つひとつのふしから学んだいろいろなことを振り返り、心に留めておくことが親神様から頂いたご守護を忘れないと同時に、成人させていただける道のりでもあるのです。

残念なことに、私たち人間は時が経てば忘れてしまいがちです。せっかく学んだことでも忘れてしまっては成人させていただけません。ですので、この年祭の旬に是非みなさんに過去の数年間の間に起こった出来事、特に乗り越えてきた困難などをしっかりと振り返る時間を作っていただきたいと思います。みなさんが受けてきたご守護、また学んできたことを、思い出しやすいように詳細やキーワードと共に実際にリストを作ってください。その自分だけのリストはみなさんが陽気ぐらしとは何なのかを定期的に思い出させてくれるとともに、新たに困難なことが起こったときなどにも参考にすることができます。それは、他の人のおたすけにも参考にできるはずです。

近年、世界中で気候変動など私たちの生活に大きな影響をもたらす問題が起きています。陽気ぐらし世界を実現するためにはまだまだ多くの課題が残されていることを実感させられます。教祖130年祭のこの年を陽気ぐらしへと向かう私たちの努力のさらなる原動力とさせていただきましょう。

【久尾マーク】

伝道庁 ２月月次祭　　２月21(日)午前９時

永尾比奈夫・海外部次長が講話をおつとめくださいます。
※教会長・布教所長会議は12時45分から行います。

1月大祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、ハワイ伝道庁長山中修吾一同を代表して慎んで申し上げます。

親神様には教祖をやしろにこの世の表にお現れ下さり、よろづ委細の元の真実を教えて陽気ぐらしへと導く道をおつけ下さいました。私共はこの真実の教えを知り、日々に親神様の御守護を感じ喜び勇んで通らせていただいておりますと共に、教祖のひながたに少しでも近づこうと成人の努力を積み重ねております。その中にも、本日は当伝道庁の一月大祭を執り行う日柄を迎えましたので、教祖年祭の元一日、今から130年前、一れつ人間の成人を急き込まれる教祖が定命を25年お縮めになりご存命のお働きをもって世界たすけに踏み出された明治20年正月26日を偲んで、ただ今よりおつとめ奉仕者一同、親神様の思召に添いきり一手一つに心を合わせ座りづとめ・てをどりを厳かにつとめさせていただきます。御前には今日一日を待ちわびて寄り集った道の兄弟姉妹が、教祖の50年の道すがらを偲びながら真心を込めてみかぐらうたを唱和し、陽気ぐらし世界の実現を真剣に祈念する状をもご覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

私共一同は、一れつ人間の陽気ぐらしをお望み下さる親神様のお心に添わせて頂き、教祖の道具衆として神一条たすけ一条喜び一条の道をハワイのこの地でしっかりと歩ませて頂きます。今月26日におぢばでつとめられる教祖130年祭にはハワイより120名が帰参し年祭活動の成果をご存命の教祖に報告させて頂きますが、当日帰参するしないにかかわらず、私共一同は今日までの年祭活動で培った力と勢いそのままに今後も成人への努力を日々積み重ね、常に周囲に心を配り、にをいがけ・おたすけの精神と態度をもって、ご存命の教祖にお喜び頂けるよう努め続けさせて頂きたいと存じます。何卒親神様には私共のこの真心をお受け取り下さり、ハワイの道が伸展し、世界中の人々が元の親を知り一れつ兄弟姉妹の真実に目覚めて、全ての争い事が終息し、互いにたすけ合い睦み合い真の平和世界である陽気ぐらしの世の状へと一日も早く立て替わりますようお導きのほどを、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

祭典役割

祭　主	山中庁長	
扈　者	岩田メルビン	久尾マーク
賛　者	井上タイロン	桧垣ダニエル
指図方	山ロナルド	
講話者	山中庁長	(英)

	座りづとめ	前半	後半
てをどり	庁　長	M.稲福	S.社本
(男性)	Y.中尾	O.中尾	M.中尾
	G.本田	T.井上	B.美馬
てをどり	庁長夫人	L.蘇	S.中尾
(女性)	J.山	T.中尾	A.綾川
	T.松川	Y.一瀬	L.長田
笛	D.明本	T.岩田	H.山本
チャンポン	R.山	B.木村	D.齋藤
拍子木	M.社本	W.城	N.坂上
太鼓	E.高田	W.三國	K.川崎
すりがね	M.岩田	G.井上	S.中尾
小鼓	T.美馬	M.久尾	G.井元
琴	C.美馬	K.金川	R.宮内
三味線	M.三國	R.井上	F.伊藤
胡弓	C.明本	L.本田	Y.川崎
地方	T.西村	Y.宮内	D.桧垣
	S.椎葉	J.蘇	B.岩田

1月大祭祭典講話

ハワイ伝道庁長　山中修吾

本日は伝道庁の１月の大祭にご参拝下さり、誠にありがとうございます。そしてただ今は、世界たすけ、陽気ぐらし世界実現を真剣に祈り願い、また教祖年祭の元一日に思いを馳せるおつとめを、皆様と共々に厳かにつとめさせていただきました。そして先ほどは、教祖が現身を隠されて130年目の一月大祭ということで、おつとめのすぐ後に教祖の御前にて祭文も読ませていただきました。いよいよ今月26日におぢばにて教祖130年祭がつとめられますが、今日の伝道庁大祭に当たり、私の思いますところを述べさせていただきたいと存じます。しばらくの間お付き合いの程、よろしくお願いいたします。

毎年繰り返していますが、皆様も充分ご承知の通り、１月の大祭は教祖年祭の元一日、教祖が現身をお隠しになられてご存命のお働きに出られた明治20年（1887年）正月26日を記念してつとめられます。教祖が現身をお隠しになられた、言いかえると「神のやしろ」である教祖中山みき様の生身の人間のお姿を直接に拝し、そのお声を直接に聞くことができなくなった日を思い返してつとめるわけですから、私たちの自然な心情的には、普通の月次祭のように「陽気に勇んで」ではなく「厳かに」つとめられます。また、教会本部の一月大祭は天理の冬の厳しい寒さの中でつとめられますので、私もハワイに来てから２度、真冬のおぢばがえりを体験しましたが、寒い中で最初から最後まで参拝していると、体が冷え切ってなおさら「厳かな」気持ちになります。

そして今日の私たち天理教信仰者の日々の信仰のあり方を考える上においては、毎年この時期に一月大祭の意義、すなわち教祖年祭の元一日をしっかりと振り返り心に治め直すことがとりわけ大切です。特に今の時旬、教祖130年祭を間近に控えた今の時旬において、教祖年祭の元一日を振り返り、そして「教祖は子供可愛い親心から、一れつ人間の成人を促すために、定命を25年縮めて現身を隠され、ご存命のお働きに出られた」という深い真実を今一度真剣に見つめ直し、そこに込められたをやの思いを、当時の人々ではなく、今この道を信仰する私自身・私たち自身に対してのことして受け取り直すということは非常に大切であると思います。

ご承知のように、『教祖伝』の最後の章には教祖年祭の元一日へとつながるできごと、すなわち明治20年初めにおける教祖と当時の人々との間での大変厳しい神人問答の様子が詳しく描かれていますが、これは決して、単なる130年前の「過去の話」として読むべきものではありません。前にも申しましたが、『教祖伝』は教祖と周りの人々の言動を綴った単なる「記録の書」ではなく、今の私たち信仰者が教祖を慕い求めるための「信仰の書」でもあります。今この道を信仰し、真

摯にひながたを辿ろうとする信仰者がそれを読む度に、読めば読むほど、その中に入り込んでいかざるを得ない、そういう性格を持った不思議な書物でもあると思います。特に最後の場面においては、子供である人間の成人を急き込まれる教祖が、定命を縮めて現身をかくされ、ご存命の働きに出られたという深い信仰的真実が、まさに時空を越えて、今この道を歩む私たち信仰者一人ひとりの胸に強く迫ってくる、そういう力のある書物だと思うのです。

そして、そのような特別な意識をもってつとめられるのが教祖の年祭です。ですから、教祖の年祭は（亡くなった人を偲ぶ）普通の年祭ではない、10年ごとにやって来る単なる記念日ではないということです。特別な意味と意義をもって、そして私たち信仰者が特別な意識をもって10年ごとに努力と真実を結集してつとめる「成人の塚」「陽気ぐらし世界への大きな一里塚」が教祖の年祭です。10年ごとに教祖の年祭を重ねることにより、お道は伸びてきた、今のお道の姿がある、と言えるでしょう。

教祖年祭活動の旬は心定めの旬でもあります。「心を定めてご守護を頂く」のがこの道の信仰です。何かご守護を頂いてから心を定めるのではありません。ご存命の教祖にお喜びいただくべく、一人ひとりが、或いは教会や布教所ごとに何かの目標を定めて、その目標の達成・完遂に向けて仕切ってつとめさせていただくということ。「仕切って」というのは、時間を仕切るという意味もありますが、自分自身を精神的に仕切る、普段の生活においても常に他のことよりもそのことを優先する、そのことに専念する、という態度が仕切ることでもあります。

今回の年祭活動では「一人ひとりのよふぼくが一人を導こう」という以外には、ハワイ管内としての全体目標は打ち出しませんでしたが、皆様がそれぞれに所属される教会を通して銘々に心定めをし、仕切ってつとめてくださったと思います。心定めは親神様・教祖への約束ですから、大声で他言する必要はありませんが、心定めが大きければ大きいほど、それを達成するのはより難しいですが、それを達成しようとする大きな努力の結果、頂戴するご守護も大きいと思います。皆様それぞれの心定めの達成具合はいかがだったでしょうか？

私と妻にとっては、今回の教祖年祭活動の始まりと、新庁長夫婦としてのハワイ赴任とがほぼ立て合ったわけですが、振り返ってみれば、ちょうど３年前の今頃から赴任前の手続きと準備を慌ただしく行い、５月に家族で赴任してからは、前任の浜田庁長夫妻と短期間で慌ただしく引き継ぎを行い、翌６月の真柱様をお迎えしての就任奉告祭の準備を慌ただしく行い、その後は伝道庁でのいろんな行事活動を初めて経験しながらハワイでの生活にも徐々に慣れ、その翌年（一昨年）は再び真柱様をお迎えしての伝道庁創立60周年記念祭の準備を行い、そしてその翌年（昨年）は年祭活動仕上げの年としてつとめさせていただきました。その間、管内教会の月次祭や記念祭にも数多く参拝させていただきました。

ほとんど何も分からないままハワイに来たわけですが、とりあえず、赴任後から教祖130年祭までの３年間をハワイ管内の皆様と心をつなぎ力を合わせて一所懸命につとめて、皆様に益々喜び勇んでいただき、ご存命の教祖にお喜びいただき、真柱様にもご安心いただきたい、という思いでつとめてまいり

ましたが、あっという間の３年間で、たいへん忙しい充実した３年間でもありました。そして今日まで、皆様から大きな親切と温かいサポートとご協力を頂いて、まだまだ不十分ではありますが、なんとか無事に庁長夫婦としてつとめさせてもらっています。誠にありがとうございます。これからもどうぞよろしくお願いします。

以前にもここでお話をしましたが、最初に「新庁長としてハワイ赴任」の打診があった時には、様々な人間思案から本当に悩みました。実際、すぐに「はい」とは返答できませんでした。ですがその後、いろいろ悩みながらも、「行かせていただきます」と返答できたのは、やはり、教祖年祭活動という大きな時旬の理のおかげだったと思います。そうでなかったら、今ここで庁長としてこうやって話をしていることはなかったと思います。逡巡してる時にある先生から、「大きな時旬に難しいけど大きな心定めをすれば、をやが喜んでくださり、きっとご守護くださる。そして多くの方々も喜んでくださる」と聞かせてもらいましたが、今は「本当にその通りやなあ」と思っています。

また、私も庁長としてこれまで多くの方々に、伝道庁やおぢばでのいろいろな御用をお願いしてきましたが、ほとんどの方が仕事等で難しい状況にもかかわらず「はい」との返事を下さり、本当に有難く思っております。『教祖伝』第十章にも、教祖直々のお言葉で「難しいというは眞に治まる」とありますが、「難しい状況の中でもなんとかをやの思いに沿って通ろうとする真実が親神様に受け取っていただける」という意味で、それがまたその人の一層の成人につながります。ですので、これからも、庁長としていろいろな御用のお願いをすることが多々あると思いますが、どれだけ難しくても「はい」との返事を期待しておりますので、どうぞよろしくお願いします。

特に私は、ハワイ青年会の奮起と活躍に期待しております。ご承知のように、一昨年の８月に真柱継承者の大亮様が青年会長に就任され、以来、若さと強力なリーダーシップで青年会を引っ張られ、教内の若者に大きなたすけの渦を巻き起こされています。日本国内だけではありません。海外のいろんな国々地域にもたすけの渦が巻き起こり、各地で青年会員が熱心に活動を繰り広げています。一昨年の伝道庁60周年記念祭でのご来布予定は、前真柱様のご容態の関係で、急にキャンセルとなりましたが、近い将来必ずお越しくださると思います。というか、大亮様にお越しいただけるように、またお越しくださった際にその勢いに着いていけるように、若い方々、青年会の方々には相応しい取り組みをお願いしたいと思います。大いに期待しております。

私たち天理教信仰者の一番の礼拝対象は、すべての人間をお創りくだされ今もご守護くだされている親神様であるわけですが、親神様というのは、「このよふわ神のからだ」（３号40）とお教えいただくように、無限絶大なお姿、広がりを持たれる神様というか「存在」であるわけですから、ちっぽけな人間である私たちからすれば、大きすぎる礼拝対象に感じられるかもしれません。ですが、その大きな存在である親神様とその子供である私たち人間を密接に結びつけてくださるのが「神のやしろ」である教祖という特別なお方です。私たち人間は、教祖によって初めて親神様のことを知り、その教えに導かれたわけ

ですが、教祖は、お姿が見えなくなった今でも、存命同様に、親神様と私たち一人ひとりを結びつけてくださる特別なお方であり続けられ、世界中、いつでもどこでも誰にでも、そのお導き・お働きを下さっています。目に見える生身の人間のお姿がないからこそ、人間の体に付随する物理的制限を越えて、「教祖は世界中をかけまわって、いつでもどこでも誰にでもお働きを下さる」ということが可能になり、それを信じることができるようになるのではないでしょうか。

実際、明治20年１月に教祖が現身を隠されてから今日まで、教祖に直に教えを受けた方々、そしてその後代々信仰を受け継いだ方々がこの「教祖ご存命の理」を固く信じて通ってくださったからこそ、その後のお道の広がり、そして今のお道の姿があります。つまり、私たちの先人が、「教祖ご存命の理」の証しとして渡される「おさづけの理」を頂かれ、それを頼りに熱心ににをいがけ・おたすけに励み、次の世代に信仰を伝えてくださったからこそ、今の私たちがあります。「教祖ご存命の理」、「ご存命の教祖が常に私と共に居てくださる、いつでも導いてくださっている」という確信が、明治20年以降、今日まで天理教と天理教信仰者を強く支えてきた「信仰的バックボーン」とも言えるでしょう。

この「教祖ご存命の理」の証しとして渡される「おさづけの理」ですが、教祖は、明治７年（1874）12月26日に初めて、ご自身が「神のやしろ」であることを外に向かってはっきり示すために赤衣をお召しになられ、同じ日に初めて「身上たすけのさづけの理」を渡されています。それを誰に渡されたのかと言うと、たくさんの人ではなく、入信から10年以上の年限を重ね、その間教祖にしっかりと付き随い、教祖の「世界たすけ」の教えを理解し心にしっかりと治めた四人の先生方の心を見定めて、教祖は「教祖に代わって身上たすけを取り次ぐ許し」として、おさづけの理を渡されています。

その後、教祖が現身を隠されてからは「おさしづ」にもとづいて別席制度が整えられ、今では誰でも、別席を九回運べば「おさづけの理」を戴いて「よふぼく」になることができます。ですが、私たちよふぼくは、「ご存命の教祖に代わって（と共に）たすけを取り次ぐ」者であることを決して忘れず、常にご存命の教祖を側に感じ、ご存命の教祖が入り込んでお働きいただけるような、澄み切った心で日々を通ることが大切です。「おふでさき」にも、

たん／＼とよふぼくにてハ
このよふをはしめたをやがみな入りこむで

このよふをはじめたをやか入りこめば
どんな事をばするやしれんで（15号60-61）

とある通りです。

殊に、ご承知のように、この度の教祖130年祭の年祭活動では、三年前に「諭達第三号」をもってお打ち出しくださったように、「全てのよふぼくが挙っておたすけに取り組むこと」「一人ひとりのよふぼくがよふぼくとして自分にできるおたすけに積極的に取り組むこと」が強調されてきました。ともすれば、「おたすけは会長だけがするもの。会長ではない私には関係ない、無理」という思い込みがある中、そうではなく、「おたすけは心掛け次第で誰にでもできる。すべてのよふぼくはおたすけを！」という文言がよく聞か

れました。よふぼくは「ご存命の教祖と共にたすけを取り次ぐ」者であるということを考えても、教会内の立場や年齢にかかわらず、よふぼくはいつでもどこでもおたすけの精神と態度で通らせてもらうことが大切です。そうすると、「この人を貴方に任せるよ！」というように、教祖が、私たち一人ひとりにとってちょうどいい、おたすけする人を与えてくださいます。

私たちが３年間拝読をさせていただいた「諭達第三号」に、「おたすけは周囲に心を配ることから始まる。身上・事情に苦しむ人、悩む人があれば、先ずは、その治まりを願い、進んで声を掛け、たすけの手を差し伸べよう。病む人には真実込めておさづけを取り次ぎ、悩める人の胸の内に耳を傾け、寄り添うとともに、をやの声を伝え、心の向きが変わるようにと導く」と具体的にお示しいただいています。今日までの教祖年祭活動で、ここハワイでも多くのよふぼくがこのようなおたすけの精神と態度でもって通ってくださったと思いますが、どうぞ、これからも、そのおたすけの精神と態度を忘れることなく、変えることなく、日々持ち続けていただいて、そして天理教内外の人々をもっともっと巻き込んで、大きなたすけの渦が生じていくことを期待します。

昨年10月、ご本部での秋季大祭神殿講話にて真柱様は、私たちよふぼくの日々の心掛けについて、以下のようにお話しくださっています。

、、、私たちが朝夕のおつとめにおいて、また月々のおつとめで、「あしきをはらうてたすけせきこむ　いちれつすましてかんろだい」と唱えるのは、たすけを急き込まれるをやの思いを復唱しているだけでなく、その思召にお応えして、私たち自身が、まずは自らの胸の内を澄ますべくつとめるとともに、世界一れつの胸の掃除のためにも力を尽くすというお誓いでなければならないと思うのであります。

この「あしきをはらうてたすけせきこむ　いちれつすましてかんろだい」というお歌は、誰でもご存知のように、毎日の朝夕のおつとめ、また月次祭の座りづとめで、三つ目のお歌として唱えながら手を振るわけですが、ただ「たすけを急き込まれるをやの思いを復唱しているだけでなく、その思召にお応えして、私たち自身が、まずは自らの胸の内を澄ますべくつとめるとともに、世界一れつの胸の掃除のためにも力を尽くすというお誓いでなければならない」と仰っていることは大変重要だと思います。つまり、私たちよふぼくは、陽気ぐらし世界建設のよふぼくとして、先ずは日々自らの心を澄ます努力をし、さらには、自分だけではなく周囲の人々ひいては世界中の人々がほこりを払い、心を澄ますように働きかけていく、祈り願っていくことが大切である、とご教示下さっています。「諭達」にも、「陽気ぐらしは心を澄ます生き方でもある」と端的にお教えいただいている通りです。

ですから私たちは、「世界中の人間の心を澄まし、陽気ぐらし世界実現を急き込まれる親神様・教祖のたすけの大事業に、よふぼくとして参画させていただく、よふぼくとして精一杯努めさせていただく」という誓いを毎日朝夕のおつとめの度に９回繰り返している、ということです。

最初のお歌は「あしきをはらうてたすけたまへ　てんりわうのみこと」ですが、私たちはこのお歌と手振りを21回繰り返し、ひた

すら親神様にたすけを願います。たすけを願う私たち人間に対する親神様からの応答が第二節の「ちよとはなし」ですが、これは「元初まりに親神様が天地を型どって最初の夫婦を拵えられ、以来今日までずっと人間世界を守護し育んできた」という、「元の理」のお話しのエキスを表しています。「一寸のお話」と言いながら、実はとても深く大きな内容のお話です。このように、おつとめのお歌の順番から、「親神様による人間創造という元の真実をしっかりと心に治めることがたすけにつながる」ということを悟ることができます。そして、元の真実をしっかりと心に治めた後は、よふぼくとして、親神様の急き込まれる世界たすけに寄与させていただくという誓いを日々新たにしているわけです。ですから、朝夕のおつとめを日々しっかりとつとめることは、私たちのたすけの意識の向上につながっていくはずです。

言うまでもなく、今の私たちの信仰生活において、おつとめは欠かすことのできない大切な祈りの営みです。天理教信仰者の日々は、つとめに始まり、つとめに終わり、そして月々のつとめを目指して進んでいく、とも言えるでしょう。朝夕のおつとめ、月次祭・大祭のおつとめ、お願いづとめなどがありますが、そのすべてに共通するのは、「全身全霊を込めて親神様・教祖に真剣に祈り願いを捧げる行為」ということでしょう。老若男女、誰にでもできる。一人でも二人でもできる、皆と一緒にもできる。いつでもどこでも誰にでもできるのがおつとめです。このおつとめを常に真剣につとめることにより、私たち自身が、日々神一条の思案と行動、そして陽気ぐらしの生き方に自ずとつながっていきます。こんな素晴らしい祈りの形態は他にはないのではないでしょうか。

実は、先月の初め、ここハワイ伝道庁でＳＤＭ（英語で歌って踊れるみかぐらうた）の会議が五日間に亘って行われ、私と妻もオブザーバーとして時々見学させてもらいました。内容については詳しく話せませんが、このプロジェクトに20年以上も取り組んでいる４人のコアメンバーの大きな熱意と努力に大変な感銘を受けました。

そして先月の月次祭の際、私の頭の中でとても不思議なことが起こりました。座りづとめの後、いつものように最前列に座って「みかぐらうた」を唱えながら参拝していると、ＳＤＭ会議の時に見て聞いていた英語のフレーズがそのまま頭の中に浮かんで流れてくるのです。もちろん、私は日本語でしっかり歌ってましたが、それと同時に頭の中で英語のフレーズが同じメロディで流れてきました。とても不思議な感覚に包まれましたが、「英語の方がおつとめをする時にはこんな感じなのかな」とも思いました。

決して私は、「伝道庁のおつとめをぜひ英語でやりましょう」と言ってるわけではありません。日本語の分からない方がお手ふりを習得するための有効な手立てとして、また実際のおつとめの時に英語の方がＳＤＭを個人的に用いることの可能性を、私自身大いに実感した次第です。地方がマイクで日本語で歌っていても、お手ふりの方は頭の中でそのメロディに合わせてＳＤＭを唱えながら踊れるかもいうことです。「日本語は分からないが、この素晴らしいおつとめ・お手ふりをもっと身に付け習得し、おつとめに出たい」という人がもっと増え、それによってハワイ・アメリカの道が大きく伸展していくという期待が膨らみました。そのためにはまず、一足

先にこの教えに導かれた今の私たちが、おつとめ（鳴物とお手ふり）を教えられた通りにしっかりと習得し、おつとめの大切さ・素晴らしさをしっかりと周囲へも伝えていきましょう。

あと９日で、教祖130年祭という大きな一里塚に到達します。ですが、先ほども申したように、それが最終地点ではありません。私たちの目指す「陽気ぐらし世界」実現への歩みは、10年ごとの教祖年祭を大きな区切りとして、ずうっと続いていくものです。末代続く「きりなしふしん」とも教えられます。

もちろん、生身の体を持つ人間ですから休憩やリフレッシュも必要ですが、130年祭の大きな一里塚で歩みを止めすぎることなく、年祭活動の勢いを失うことなく、しっかり休憩とリフレッシュをした後にまた力強く歩み始めましょう。

今後も管内が一丸となり、心と力を合わせて、勇み勇ませ合って、日々を神一条喜び一条におたすけの精神とひのきしんの態度でもって進ませていただきましょう。

ご清聴、ありがとうございました。マハロ！

もちつき

１月３日（日）シェラトン・プリンセス・カイウラニホテル、６日（水）ロイヤル・ハワイアンホテル、10日（日）日本文化センター主催のオハナフェスティバルでそれぞれもちつきが行われました。（写真はロイヤル・ハワイアンホテルにて）

少年会リーダーズキャンプ＆新年会

１月30、31日、少年会リーダーズキャンプが行われました。31日は、オールドスタジアム公園で、清掃ひのきしんとバーベキューが行われました。

おつとめ奉仕者任命

１月17日付で、齋藤ダスティンさん（本島/ホノルル教会）と坂上典明さん（池田/鶴湘南分教会）が、伝道庁おつとめ奉仕者に任命されました。

永尾比奈夫・海外部次長来布

永尾比奈夫・海外部次長が２月16日から22日までハワイに滞在され、以下の日程で講師をしてくださいます。

・母親講座	18日（木）午前10時	伝道庁神殿	(日本語のみ)
・元の理講話	18日（木）午後７時	伝道庁ホール	(英語のみ　主に青年会・女子青年層対象)
・元の理勉強会	19日（金）午後６時半	伝道庁ホール	(英語のみ　元の理に精通した方々対象)
・お手直し	20日（土）午前10時	伝道庁ホール	(主に伝道庁おつとめ奉仕者対象)

教人資格講習会英語クラス

６月27日から７月11日まで、５日間を３回にわけて開催されます。

婦人会だより

立教179年１月26日、教祖130年祭は厳かにつとめ終えられました。これまでの三年千日で培ったおたすけの心で、また今日から新たな一歩を勇んで踏み出しましょう。

■バザーひのきしん（毎週水曜日）
ウエストハウス　　９：00 - 12：00

■ヌアヌハレ慰問
２月13日（土）　　９：30

※今月の例会、鳴物練習はありません。

※今月の直会当番は、周東グループです。よろしくお願いします。

少年会だより

■三会合同天理文化センター清掃ひのきしん
２月15日（月）９：00 - 11：00
スプリングキャンプに向けてＴＣＣの清掃を行います。昼食も用意されます。ふるってご参加ください。

■スプリングキャンプ＆おつとめまなび総会
日程は、2016年３月25日～27日、おつとめまなび総会は26日の伝道庁遥拝式後に行います。

青年会だより

■月例会議
２月17日（水）19：30

■教祖傳勉強会
２月26日（金）19：00

女子青年だより

皆様こんにちは、そして少し遅いですが、あけましておめでとうございます。今年度の女子青年委員長をさせていただくことになりました、アロハ教会所属の川崎サリーです。このような機会を頂けたこと、庁長夫人とハワイ女子青年の皆様に感謝しています。今年も女子青年活動の上に変わらぬサポートを頂けるようお願いいたします。

２月行事予定

1日（月）・教校学園高校生来布（～12日）
2日（火）・庁長帰任
3日（水）・コミュニティーひのきしん
5日（金）・月例にをいがけデー（教校学園高校生参加）
8日（月）・天理文化センター月次祭
・TCC＆文庫ジョイント委員会
10日（水）・Adopt A Hwy清掃ひのきしん
13日（土）・婦人会ヌアヌハレ慰問
15日（月）・天理文化センター大掃除
16日（火）・永尾比奈夫次長来布（～22日）
・少年会会議
17日（水）・青年会会議
18日（木）・母親講座（午前10時）
・元の理講話（午後７時）
19日（金）・元の理勉強会（午後６時半）
20日（土）・お手直し（午前10時）
・主事会
・学生会ひのきしん
21日（日）・伝道庁月次祭
・サンデースクール/アロハバンド
・教会長布教所長会議
・ジョイワークショップ
・天理フォーラム会議
22日（月）・ワイキキ神名流し
26日（金）・遥拝式/お手ふり鳴物練習
・青年会教祖傳勉強会
28日（日）・ハワイ島婦人会教祖ご誕生の集い

TENRIKYO HAWAII DENDOCHO
2920 Pali Highway Honolulu, HI 96817
Phone : (808)595-6523 Fax : (808)595-7748
E-mail : dendocho@tenrikyo-hawaii.com

感謝、慎み、たすけあい
陽気ぐらしのキーワード

天理フォーラム2016

2016年７月15日、16日

天理フォーラム2016は、英語圏で生きる人々が人類のふるさとである親里に集い、英語で教えの実践について考え、語り合う場です。友との再会や新たな出会い、そして世界中の教友と親里でつながり合い、たすけの道を一緒に考えていきましょう。

http://kaigai.tenrikyo.or.jp/tf2016/